

# 平成 30 年度 京都市域地域医療構想調整会議（C ブロック会議）

## の開催概要（第 4 回）（平成 31 年 2 月 19 日）の審議内容

### 開催日時

平成 31 年 2 月 19 日（火曜日） 14 時から 16 時まで

### 開催場所

京都府医師会館 3 1 0 会議室

### 出席委員

出席者名簿のとおり（41 名）

### 審議の概要

#### 報告事項

##### （1）「地域における各病院の担う役割について」発表

- ・資料（別紙）により、各病院から発表

##### <主な発言>

（在宅療養あんしん病院登録状況について）

- ・数年間で 1～2 名程度。
- ・登録者数は 100 人程度、使って入院しているかは不明。
- ・急性期病院からの転院では、あんしん病院制度を使うようなパターンはあまりない。
- ・通信病院には、肺炎や心不全でお世話になっている。ときどき入院、ほぼ在宅で対応していただいている。
- ・地域の患者は地域の医療機関で出来るだけ診てほしい。

##### （2）「各団体の在宅療養等に係る役割と今後期待すること」発表

- ・資料（別紙）により各団体から説明

##### <主な発言>

- ・栄養状況が悪い人は口腔ケアが悪い人が多い。歯科医師会にカンファレンスへの出席を依頼可能か。
  - 口腔サポートセンターにお問い合わせいただきたい。
  - 慢性期では病院と連携が出来ている。
  - 全てに参加できるわけではないが、医師会歯科医として要望を持ち帰り、仕組み作りについて検討したい。
- ・下京区には在宅療養介護支援センターがあるので、活用していただきたい。
- ・ケアマネジャーと薬剤師の連携が上手くされていないとの意見については、持ち帰り検討したい。
- ・在宅療養介護支援センターは市町村が設置主体で、住民向けというよりは専門職向けなので、病院には活用いただきたい。
- ・第一日赤は病院として、連携システムの構築を始めており、地域連携室が独自の取り組みをしていると聞いている。
- ・急性期病院から治療を終えて帰ってくるパターンが多いが、かかりつけ医、家族がいなくて困るケースがある。
- ・（かかりつけ医として）自身が送った患者以外のケースをどう対応していくかが課題。
- ・薬剤師会として、在宅診療を行うためにホームページ等に求人を載せているが、個人の薬局は一人経営が多く、応募がない。
- ・大手の薬局は独自のスタンスをとっており、個別に病院と連携をとっているが、薬剤師会に加盟していないので、会との連携は取れていない。
- ・薬剤師会として、休日、夜間の連携が取れていない現状がある。医師会では輪番制のようなものはあるか。
  - 各地区医師会にアンケート等で連携について、調査中。休病診が対応しており、輪番制はない。

### （３）病床機能区分検討ワーキングの報告

- ・資料（別紙）により京都府から報告

#### ＜主な発言＞

- ・介護療養病床の介護医療院への転換を検討しているが、介護医療院は京都方式ではどのような扱いになるのか。
  - 介護医療院は介護保険の管轄なので、本報告からは外れる。転換後の6年間は、既存病床数に数えることになっている。

### （４）連絡事項

- ・今年度のブロック意見交換会は今回が最終回となり、3月に京都市域全体会議にてとりまとめて、報告させていただく。
- ・来年度以降も本会議は開催するので、今後とも御協力いただきたい。